

まちの総合情報誌ふじさわ

Jan.2006

Fujisawa

1

No.624



新春特集 ちょっと気になる!

06年話題の人、注目の人

1月8日に開かれた第24回子ども郷土芸能発表会で、元気いっぱい
の田植え踊りを披露する徳田小学校児童【15ページに関連】

年 いさつ



藤沢町長
佐藤 守
さとう・まもる

改革を意味する危機と正面から向き合い 新たな発展へと結びつけるまちづくりを

新年あけましておめでとうございます。平成十八年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆さんには、新しい年に限りない願いと希望を託すにふさわしい新春を、健やかに迎えられたことと、心よりお喜び申し上げます。また、日ごろまちづくりに寄せていただいているご支援、ご協力に対し、深く感謝を申し上げます。

昨年を顧みますと、「安全」「安心」がこれまでにないほど身近な問題としてクローズアップされました。きわめて残念なことですが、交通機関の大型事故や地震・台風などの自然災害の多発、耐震強度の偽造問題、幼児・小児への虐待や殺害、巧妙化する詐欺問題の増加など、実にさまざまな事件や事故を巡るニュースが駆け巡りました。

また、郵政改革を掲げての総選挙に象徴されたように、さまざまな分野で改革が叫ばれた一年でもありました。

「地方でできることは地方で」を掲げ、地方分権時代の国と地方のあり方を見直そうという三位一体改革は、一応の決着を見たものの、地方の自立にはほど遠い内容であり、改革の名のもとに本来の目的を離れ、末端の地方自治体に大きな痛みをもたらす結果となっております。

平成十七年は戦後六十年、また本町においては町制施行五十周年の節目の年でした。このような大きな時代の流れの中で本町は「みんなの藤沢みんなでつくる」を合言葉に産業の振興、地域文化や福祉の深まりに町民一丸となり進めてきた歩みの確かさをあらため

て確認したところです。

その中には、全国の黒毛和牛保有の1割を占める農企業「安愚楽共済牧場」の誘致がありました。現在、黄海地区の国営団地二十六分に畜産供給基地としての姿を現しつつあり、藤沢農業の振興に大きな波及効果が期待されると同時に、新たに五十人を超える地域雇用の拡大が図られています。

自治体再編を巡る取り組みは、ご承知のとおり両磐九市町村の枠組みによる合併は実現に至らず、七市町村による新一関市が昨年九月に誕生したところです。

本町は示された条件を期限内に整備するに至らなかったことから参加を見送ることにしましたが、昨年一年間をかけ、その整備に最大の努力を積み重ねてきました。その結果、示された条件についてはおおよそ目途が立つ状況に至っています。

一方、県においても新たな市町村合併の検討が始められており、先ごろ新たな市町村合併の組み合わせが「たたき台」として公表されたところです。それには本町を含む両磐地域での合併、さらに将来的には県南地域の大同合併も盛り込まれ、今にある地方自治の概念を超えた内容も示されています。

迎えた平成十八年、町の将来を左右する重要な岐路に立っていることは確かであり、大きな決断を迫られています。決断は選択することであり、選択とは岐路にあつて、一方の途を捨てることでもあります。その現実を深く心に期し、他の可能性を断ち切る覚悟を固めなければなりません。

いずれにしても自治再編の取り組みについては、機をとらえ町民皆さんのご意見を伺い、その方向性に



藤沢町議会議長
富士弘一
 はたけやま・こういち

いて結論を導き出していきたくて考えています。今にある藤沢という地域のまちづくりは、そこに住むわたしたちが自ら考え、創り上げていかなければならないことは言を待たないところでは、これまで先人が長い歴史の中で築き上げてきた町の将来像を共に思い描き、求めるべきものと創るべきもの、そして守るべきものを見定めながら、厳しさの中にも新しい希望の光を求め、なすべき課題と正面から向かい、今ある危機を発展へと結びつけていかなければなりません。危機は必ずしも、将来を消し去るものではありません。

むしろ、危機は未来に対し、非常に大きな可能性を含むものであり、新たな将来への呼びかけでもあります。そういう意味では危機は改革を意味するとも言えます。新春に当たり、今にある危機を新たな発展につなぎ、大きく躍進する年とすることをここに誓い合いたいと思います。

結びに、町民皆さんの一層のまちづくりへの参加と協力をお願い申し上げますとともに、今年一年が皆さんにとって素晴らしい年となりますことを心からお祈り申し上げます、年頭に当たってのあいさついたします。

自治の姿やかたち、あり方を決める一年 議会の総力を挙げこの難局を乗り越える

平成十八年の年頭にあたり、藤沢町議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。町民の皆さん明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え、皆さんのご健康を心からお祝い申し上げます。本町議会も昨年九月で、任期の半ばである二年が経ち、常任委員会等の議会構成を再編成し、新たな気持ちで議員活動に取り組んでおります。今後町民の立場で判断し、日々努力する覚悟ですのでよろしくお願ひいたします。

昨年も台風・地震・雪害等の自然災害、列車転覆・マンション設計偽造・幼児殺傷等の事件事故で多くの犠牲者が出るなど、毎日毎日数え上げられないほどの事件が起こっています。いまだ解決・解明されない事件事故等がありますが、一日も早く平和に安心して暮らせることを強く願うところです。

さて、昨年末に総務省より国勢調査速報値が公表されました。対前年比約一万九千人の人口が減りました。

予想より二年も早く日本は、人口減少社会になりました。人口の減少は、経済成長にはマイナスで、若い世代が減って社会の活力も乏しくなるといわれます。

本町も一万人を割り九九〇一人、地方自治法でいえば一万人未満の町村に分類されることになりました。このことは、昨年四月に施行された新合併関連法が想定する町村に該当することになったことを意味します。県における合併推進審議会が示すたたき台でも明らかです。議会としてもこの事実を重く受け止め、特別委員会等での研究調査活動をしてまいります。今にある自治の姿やかたち、そしてあり方を、未来を見通しながら考えなければならぬ大切な一年であると認識しています。

町議会といたしましては町政の議決機関として当面する重要課題に真剣に取り組む、町民の負託に応える所存であります。本年もご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



PERSON
OF THE YEAR

01

藤沢サンイチクラブ



PERSON
OF THE YEAR

03

新沼小6年生親子

人、注目の人

ちよっとなつて元気になる！

新春特集

PERSON
OF THE YEAR

頑張る人は輝いている。
頑張る人には夢がある。
頑張る人は、見ているだけで、
こっちまで元気になれるからすごい。
そんな今話題の人、今年注目の人を
新春特集でズームアップ。



PERSON
OF THE YEAR

02

千葉智子さん



PERSON
OF THE YEAR

04

保呂羽地区健康センター

06年話題の

古豪復活ののろし上げ、全国スポレク祭で優勝

藤沢サンイチクラブ



汗を流す藤沢サンイチクラブの選手たち。女子は3月に千葉市で開かれる全日本選手権を目指している

日ごろのトレーニングから生まれた強靱な肉体

午後八時。仕事を終えたメンバーが町スポーツプラザに集まってくる。互いにあいさつを交わした後、ランニング、ストレッチ、背筋などそれぞれウォーミングアップを行う。屋内とはいえ気温は零度に近い。吐く息も白い。

一通りのウォーミングアップを終えると、長さ三十二センチの綱が準備される。モップで床を拭き、足場を整え、綱を握つての練習が始まった。約四十五度の後傾姿勢で綱を引き、バランス感覚を保つ。一本の綱を通じ、全員の心が一つになっていく。繰り返すこと数回、集中力が高まってきた。

「よし、そろそろ引くぞ」
菊地清^{きよ}女子監督の指示で本番さながらの綱引きが始まった。
「テイク・ザ・ストレイン

(綱をピンと張れ)「

「ステディ(状態を保て)」「

「プル(引け)」「

静かな体育館にメキメキと力のこもった音が響く。練習とはいえ、床に背中がつきそうな低い姿勢での力勝負は迫力満点だ。

菊地監督は「綱引きは腕力じゃない。下半身で引くもの。足腰の強さが重要だ。途中で体勢が崩れても、そこから持ち直して引き返す強靱な肉体は、日ごろの走り込みや地道な筋トレがあつてこそできるもの」と静かに語る。

20年以上上本県綱引き競技をリードしてきた名門

サンイチと言えば、県内綱引き競技の代名詞的存在。一九八六年に結成されて以来、男女そろって県内外にその名をとどろかせた名門チームだ。抜群のパワーと技術で数々の栄冠を手にしてきた女子チーム。全国農協共済綱引大会では八九、九〇年と二大会連続で準優勝、ベルカップ県大会では三連覇を達成するなど、無敵の黄金時代を築いた。しかし、仕事や子育てに忙しい人が増え、県綱引連盟から表彰された創部十年目に休



創部以来、男女そろって数々の大会で好成績を収めてきた藤沢サンイチクラブ。ベテランと若手がかみ合い、2006年はこれまで以上の活躍が期待されている



力のこもった練習で

Interview



藤沢サンイチクラブ
菊地 清子 女子監督
きくち・きよし

筋力を維持するために必要不可欠な練習量が週3回。スポーツドクターの指導を受けて決めました。仕事や家庭を持ちながらの練習は正直大変ですが、それでも続けてこれたのは、みんな綱引きが好きだからです。

部。それからしばらくは、男子がサンイチの看板を守り続けてきた。
七年間のブランクを経て二〇〇二年に活動を再開。同年の県綱引選手権で準優勝し、全日本選手権大会に出場、古豪復活ののろしを上げた。
男子は、創部以来、安定的にその強さを発揮してきた。時代が変わればメンバーやチームカラーも変わり、上位にランクされるチームも入れ替わるのがスポーツの世界。

昨年十月一日から四日まで、本県を会場に開かれた第十八回全国スポーツレクリエーション祭(スポレクいわて2005)。県内十八市町村で二十九種目が行われ、全国四十七都道府県と韓国から選手約一万二千人が参加、日ごろ鍛えた技を競い友情を深めた。
このうち十月二、三の両日、北上市で開かれた男女混合綱引き競技には、本県代表としてサンイチクラブを中心とする「わ・いわいプラザ」が出場、貫禄の戦いで見事Hグループを制した。
玉澤監督は「友情と交流が

そんな中、サンイチは二十年以上にわたって、常に県の三強に名を刻み続け、〇五年には県選手権二十年連続出場の特別表彰も受けている。
玉澤俊一(しんいち)男子監督は「昔は腕力勝負だったが、今は緻密な試合運び、持久力と瞬発力すべてが要求される。そんな中、常に上位にランクインしてきたのはチームワークと意地。負けられないという強い気持ちがあったからです」と強さの秘けつを語る。
県代表としてスポレク祭に出場し堂々優勝飾る

メンバー募集

藤沢サンイチクラブでは、メンバーを募集しています。まずは、気軽に練習会場に見学に来てください。
練習日 毎週月・水・金曜 午後8時~10時
場所 町スポーツプラザ
[問]玉澤俊一 ☎0191-63-2111
内線234(藤沢町役場内)

創部時からのベテラン選手が健在する一方で、若手も加え、新しいチームづくりが進むサンイチ。かつて全国を相手に栄光をつかんだチームが、どんな活躍を見せてくれるのか、今年のサンイチは目が離せない。

Interview

スポレクいわて2005に参加した選手たち

北上市で昨年10月2、3の両日開かれた全国スポーツレクリエーション祭(スポレクいわて2005)男女混合綱引き競技には、藤沢サンイチクラブを中心に編成された「わ・いわいプラザ」が岩手県代表として出場、見事Hグループで第1位になった。同大会に出場した選手たちに話を聞いた。



玉澤俊一監督

Tamazawa Shunichi
砂子田字高田・地方公務員・47歳

勝敗だけでなく全国の人たちとの交流や、参加チームのレベルを考慮した組み合わせで行われるなど、普段の大会とはひと味違う大会を楽しむことができました。「感動は芸術文化だけでなくスポーツでも得られます」



佐藤久枝さん

Sato Hisae
一関市千厩町磐清水・会社員・25歳

今回のスポレク祭は、昨年5月から綱引きを始めたわたしにとってデビュー戦でした。大会では、チームの先輩たちに支えられながら、楽しく精一杯プレーできました。とてもうれしかったです。



佐々木文男さん

Sasaki Fumio
保呂羽字上野平・会社員・49歳

地元開催ということで、普段通りリラックスしてプレーできました。男女混合チームということで、チームワークがとても重要なのですが、手に豆をつくりながら頑張った女子選手の活躍に感謝しています。



玉澤法子さん

Tamazawa Noriko
砂子田字境田・会社員・45歳

「親睦と交流」が目的の大会とは言え、いざ綱を引けば本気で勝負に出てしまうわたしたち。方言と笑いの絶えない普段と違う雰囲気の中で、「来年は鳥取で会いましょう」を合言葉に多くの人と交流を深めてきました。



畠山望さん

Hatakeyama Nozomi
一関市室根町矢越・会社員・21歳

昨年5月から綱引きを始め、初めての大会がスポレク祭でした。試合では大変緊張しましたが、勝った時の快感と喜びが今でも忘れられず、もっと練習して強くなり、たくさん試合に出たいと思います。



高橋和夫さん

Takahashi Kazuo
一関市千厩町小梨・会社員・45歳

近年、綱引き人口は減少傾向にあり、マイナーなスポーツに思われがちですが、楽しくてやりがいのあるスポーツです。興味のある人はぜひ練習会場に足を運んで見てください。次回の鳥取にも参加したいです。



菊地安子さん

Kikuchi Yasuko
砂子田字境田・会社員・53歳

20代から50代までのメンバーが、年代を超えていっしょにプレーできるところが綱引きの一番の魅力です。スポレク祭では、全国から参加した多くの人たちと交流を深めながら楽しく過ごすことができました。



小野寺寛さん

Onodera Hiroshi
一関市千厩町磐清水・会社員・27歳

日ごろの練習を強化して、絶対に負けない根性と体力をつけて、もっともっと上手になりたいです。スポレク祭では、他県チームと試合をして交流を深めましたが、いろいろ勉強になりました。次の大会にも出たいです。



佐藤幸和さん

Sato Kowa
一関市千厩町磐清水・会社員・28歳

綱引きを始めてまだ日が浅いにもかかわらず、スポレク祭出場という貴重な体験ができてうれしかったです。今は次の大会に向け練習を重ねていますが、ぜひ鳥取大会にも出場したいと思っています。



三浦望さん

Miura Nozomi
徳田字桜ノ沢・会社員・24歳

綱引きを始めたきっかけがスポレク祭でした。週3回の練習に助っ人として参加してから、大会までいろいろ葛藤もありましたが、初めての大会で好成績を収められたことは今後の自信とやる気につながりました。



菊地勤さん

Kikuchi Tutomu
保呂羽字登戸沢・会社員・47歳

老若男女が共に綱を引けるのは素晴らしいことです。週3回の練習はきついです。試合で勝ったときの感動が忘れられず、今でも続けています。綱引きで他県の人たちと顔なじみになり、交流の輪が広がっています。



菊地和代司さん

Kikuchi Kazuyoshi
砂子田字金山沢・会社員・23歳

スポレク祭では貴重な経験をすることができました。綱引きを通じて、全国各地から参加した人たちと交流し、友情を深めることができました。もっともっと練習を頑張って、どんどん大きな大会に出たいと思います。

藤沢サンイチクラブと共に、全国スポーツレクリエーション祭で大活躍を見せた。

自身二〇〇〇年の石川大会に続く二度目の出場。W45クラス(女子四十五・四十九歳)八百メートルでは3分5秒83で五位、三走を務めた女子四百メートルリレーでは60秒41で五位と、見事ダブル入賞を果たした。

しかし、「八百で自己ベスト(3分1秒)を更新し、三分を切る事が目標だったため残念です」と入賞の喜びよりも悔しさをにじませる。

長距離を得意とする智子さんだが、トラックスピードを買われ、今回はマスターズ陸上事務局から短距離での推薦を受けた。県代表に決まってからは週に四、五日、仕事や家事の合間に走り込んだ。休日には江刺市など陸上仲間のところに出掛けてトレーニングを積み、三分を切るためにやるべきことはやってきた。だからこそ「素直に(入賞を)喜べなかつたんだと思います」と振り返る。

もともと足は速かったが、陸上を始めたのは意外にも三十九歳から。中学時代は体操部、高校時代は演劇部に所属した。走り始めたきっかけを「バレーボールのつまいよそ

のお母さんがうらやましかつた。わたしも、何か人よりできるものをつて思つたとき、真つ先に浮かんだのが走ることでした。しかも美容と健康にもいいしね(笑)」と話す。走っているときが、一番自分らしくいられるときつぱり。「楽あれば苦あり」を座右の銘に生涯現役を目指す。最近、練習中に、道ばたで声をかけてくれる人たちが増えた。そ

んなふれあいもまた走る楽しみの一つ。さらに、「好きな陸上を続けられるのは、家族の理解があつてこそ」と感謝の気持ちをおぼす。

人にはやさしく自分には厳しい負けず嫌いの四十七歳。「もっと筋トレに励み、トラックスピードをつけて、自己ベストを更新していきたいです」

年齢を感じさせない若々しい笑顔で、今シーズンの活躍を誓った。



PERSON OF THE YEAR

02

注目の人

千葉智子さん

マスターズ陸上期待のホープ

27人全員が心を一にしてつかんだ本戦出場。初出場で見事合格の快挙は生涯忘れられない思い出となった



新沼小6年生親子

日本テレビの仮装大賞に出場 初挑戦で見事合格

PERSON
OF THE YEAR

03

話題の人

鳥になって新春を舞い、
仮装大賞で見事合格

新年早々うれしいニュース
が飛び込んできた。

日本テレビが主催する正月
の人気番組「欽ちゃん&香取
慎吾の第七十五回新！仮装大
賞」に東北地区代表として出
場した新沼小学校（佐々木敏
男校長、児童六十七人）の六
年生親子が、息の合った華麗
な演技で見事合格、町中が喜
びに沸いた。

「新年へのパトントッチ」と
題した仮装は、「黄金の鳥」が
新春の夜空を優雅に舞い、最
後はえとの犬に早変わりする
という作品。ビジュアルの美
しさ、抜群のチームワーク、
高い演技力が評価され十八ポ
イント（合格は十五ポイント
以上）を獲得した。



冬休みに入ったの本番直前の練習で、ビデオ
を見ながら演技をチェックする児童と父母ら

六年生十一人、父母十一人、
担任の皆川昌枝先生の二十三
人が仮装し、四人の父親が大
道具と黒子役を務めた。

児童と父母がいつしよに
卒業の思い出づくりを

仮装大賞への挑戦。そもそ
ものきっかけは「卒業の思い
出づくりに、親子で何か挑戦
しようよ」という父母の言葉
だった。以前から「子どもた
ちと仮装大賞に出ることが
夢」だった皆川先生は「みん
なと出てみたい」と提案。児
童や父母と話し合いを重ね、
学年PTAの了解を得てエン
トリーを決めた。

「新年へのパトントッチ」に
は今春、同校を卒業する六年
生が「中学に進んでも大きく
羽ばたいてほしい」という願
いが込められている。金色の
衣装を着た二十三人一人ひと
りが異なる動きをしながら、
鳥の羽ばたきを表現するとい
うきわめて難易度の高い作品
完成までの道のりは長く、そ
して険しいものだった。

予選落ちからの大逆転劇
狭き門突破して本選に

今回、東北地区から本選に



「中学に進んでも大きく羽ばたいてほしい」という願いが込められた「新年へのパトントッチ」。児童、父母、担任27人全員が心を一つに新春の空を舞った(番組著作権上、昨年12月25日に行われた練習風景から)

Interview



6年PTA役員
千葉史恵さん
ちば・ふみえ

初めは親のまねをしていた子どもたちが、最後は親を引っ張ってくれるほど成長しました。生涯忘れられない思い出です。



代表(新沼小6年)
小野寺大地君
おのでら・だいち

仮装大賞に取り組んで、けんかが少なくなりました。前より仲良くなれたような気がします。みんなできてよかったです。



6年担任
皆川昌枝教諭
みなかわ・まさえ

新沼の子どもたち、新沼の父母たちだからこそできたことです。皆さんの情熱とやり遂げようとする意志の強さに脱帽です。



6年PTA役員
小野寺恵子さん
おのでら・けいこ

親子でこんなに熱くなれて、こんなに頑張れて、子どもたちも父母も、仮装大賞を通して本当に一つになれたと思います。

出場したのはたったの二組。それほど本選出場のハードルは高い。

東北地区予選は十一月、仙台市で開かれた。同校はじめ東北各県から十九組がエントリー。しかし、一次審査の合格者はゼロだった。一度はあきらめかけたが、「企画が良かった」という理由で二次審査(ビデオ審査)へのエントリーを認められ、「やるしかない」と再挑戦。心を一つに挑んだ仮装は審査員の心を動かし、本選への切符を手にした。

は変更の連続。いつまでたっても完成しない仮装に、ため息が漏れることもあった。

練習は毎晩七時半から十時まで行われた。夜の十時にいったん子どもたちを帰宅させ、その後は、父母らがビデオを見ながら深夜まで演技をチエックした。クリスマスも冬休みも返上で練習に励んだ。千葉俊也君の母で6年PTA役員の史恵さんは(変更の連続で)「つらいときもありました。でも、絶対に成功させたい」とあきらめない気持ちで、やり遂げるエネルギーや苦勞を乗り越えていく力になったんだと思います」と振り返る。

思い出づくりに留まらず自信や誇りが生まれた

二〇〇六年一月一日、東京後楽園ホール。番組収録の都合上、演技時間が短縮されるなど、「直し」は本番直前まで続く。不安と緊張、さらにトップバッターの重圧で、食事のどを通らない。それでも二十七人の心は一つだった。「絶対に成功させたい……」いよいよ本番が始まった。「一番、新年へのパトントッチ」

今度はえとの犬に早変わり。全員で「あけましておめでとーございませう」と新年のあいさつをした瞬間、割れんばかりの拍手とともに得点がどんどん伸びていく。

「おめでとーっ、合格」司会の萩本欽一さんが声高らかに合格を告げた。「やった、やった」抱き合った、万歳した。喜びと涙で顔はくしゃくしゃになった。みんなをまとめてきた代表の小野寺大地君、「うれしくてみんな泣きました。何度も直しが入ってやめたくなくなるときもあったけど、お父さんやお母さんの頑張る姿を見たら、ぼくたちもやらなきゃって気持ちになりました。頑張って続けてきて本当に良かった」と言葉を弾ませる。

大地君の母恵子さんは「スポ少では、あと一歩のところまで頂点に立つことができませんでした。だからこそ、仮装大賞にかける思いは半端じゃなかったです。本番前、緊張でガチガチのわたしに「大丈夫、おれがそばにいるから。ちゃんといるから大丈夫」って息子が言うんです。心強かったですね。子どもたちのおかげでこんなにすばらしい経験ができました」と喜びもひとしおだ。

皆川先生は「子どもたちはもちろん、お父さんお母さんの情熱に驚きました。夢は見るとは違って、実現するものだといいことを、皆さんに教えていただきました」と充実感でいっぱいだ。「卒業記念」と取り組んだ仮装大賞。全国から五千七百もの応募があり、本選の舞台に立つこと自体が難しいといわれる中で、初出場できなりの合格は立派。仮装大賞で六年生十一人が手にしたものは思い出だけではない。二十二の瞳は今、大きな自信と誇りで輝いている。

保呂羽地区 健康センター

親から子へ、子から孫へと 古里の食文化を継承



た料理をみんなで食べるのはまた格別。互いに出来映えを語り合う

食の大切さが叫ばれる中、地域ぐるみで食を考える

食生活の乱れが指摘される中、学校や地域を通じて食の大切さを学ぶ「食育」が各地で広がっている。地元の食材を給食などで使う「地産地消」の取り組みも盛んだ。

保呂羽地区健康センター（小野寺恒雄^{ニホノ}所長）は、保呂羽地区（第三十六・三十九区）の自治会協議会、食生活改善推進員、保健推進員、老人クラブなどで構成される健康づくりの推進組織。保呂羽地区では二〇〇四年、地域ぐるみ

で郷土の食材や料理を守り伝えていこうと、スローフード運動に乗り出した。

食事だけでもゆっくりとスローフード運動を推進

近年、よく耳にするスローフード。風土に根ざした食材や食文化を守ろうと北イタリアから始まった運動で、日本でも広がりをみせている。ファストフードに対抗して

生まれた言葉だが、決してファストフードを否定するものではない。世界中、いつでもどこでも同じ味、同じ質を提供する平等主義のファストフードに対し、それぞれの国や地域に伝わる伝統の味や調理方法を守り、継承していくという考え方がスローフードだ。忙しい現代であつても、「せめて食事だけは、家族みんなで、手作りのものをゆっくり味わって食べよう」という運動だ。

親から子へ、子から孫へ伝え守りたいものがある

保呂羽地区健康づくり交流会は昨年十二月十八日、保呂羽地区コミュニティセンターで行われた。交流会は同地区

団子を生かした地域づくり

第37区行政区域長 千葉庄一さん
ちば・しょういち

祝いごとでは奇数を使うのが昔からの言い伝えなので、今日は77個の果報を作りました。幸運をもたらす果報は、神棚に上げると翌日5円玉に変わっていたものです。西磐井の「もち文化」同様に団子は東磐井の食文化。団子を生かした地域づくりも面白いですね。



健康センターが主催、保健センターが共催。〇三年度に住民と町が協働で策定した「みんなで作っべし・健康づくり」に基づき開かれた。

午前十時から始まった交流会には、小学生からお年寄りまで約八十人が参加。初めに県栄養士会の平澤郁子^{ヒラノ}会長「盛岡市」が「我が家の味を伝えよう 親から子へ 子から孫へ」と題して講演。食材へのこだわりや食の歳時記など、自らの体験を交えながら「子どもたちが大人になっても忘れないようなわが家の味を伝えてほしい」と訴えた。

講演後は、食生活改善推進員と老人クラブ員の指導で、「果報団子」とクリスマスケーキ



幸運をもたらすといわれる果報団子は、この地方に古くから伝わる郷土料理だ。感性豊かな子どもたちが工夫を凝らして作ったクリスマスケーキ。デザートでお年寄りたちにも振る舞われた。なれた手つきで次々と団子を丸めるの女性たち。萩の枝を削っての果報づくり。昔はどこの家でも年中行事として行われていた。児童による余興も飛び出し、昼食は大いに盛り上がった。

キづくりに挑戦した。果報団子は、この地方に古くから伝わる郷土料理。萩の枝を削って作られた長さ一・五センチほど

の「果報」が団子の中に入っていると幸運と出合えると言い伝えられている。

男性たちが果報を、女性た



核家族化が進み、大家族が少なくなった今、みんなで作っ

小野寺所長は「こんなに参加者が多いことに驚きました。それだけ、食に関心があるということでしょうね。昔から地域に伝わる郷土料理や伝統料理は、間違いなく体に良く

保呂羽地区の児童の余興も飛び出し、「みんなで作って、いっしょに食べると本当に楽しい」「家に帰って嫁や孫にも伝えたい」など、笑顔があふれていた。

ちが団子を、子どもたちがケーキを作った。三世代が交流を深めながらの昼食づくりでは会話も弾み、およそ一時間で八十人分の昼食が出来上がった。

同センターでは今後も町や関係機関と連携しながら、自然の流れに逆らうことなく、地元の食材と向き合い、旬のものを旬の調理方法で食べるスローフード運動を地域を挙げて推進する考えだ。

食という字は「人」に「良」と書く。豊かさの中で何をどう食べるか、自由に選択できる時代だからこそ、こちらでもう一度「食」の源流を見つめ直す必要があるようだ。

しかし、近年、長い年月をかけて築き上げられた日本の食生活の体系は揺らいでしまっている。豊かさの象徴ともいえる商品化された食材が食卓に並び、先人の知恵や生活術の結晶である郷土食が消えつつある。

古くから地域に内在してきた食の力。その力の上に人々の健康があり、暮らしが成り立っている。

おいしいものばかり。これを日常生活に取り入れることで、一人ひとりの健康づくりを進めることが交流会のねらいです。みんなでいっしょに食卓を囲めば、コミュニケーションも深まるし、こうして楽しく料理することで、子どもたちの食育にもつながります」といっている。



保呂羽地区
平澤郁子会長
ひらさわなほこ

保呂羽地区の食に対する関心の高さ、世代間のつながりに驚きました。地域で子どもを育てていることもすごいです。



保呂羽小学校4年
小野寺香奈さん
おのてらかな

クリスマスケーキ作りは飾りつけが楽しかったです。果報団子はとてもおいしくて、昔の人はすごいと思いました。



町食生活改善推進員
三浦勝子さん
みつらかつこ

郷土料理には作る楽しみ、食べる楽しみ、みんなで語り合う楽しみがあります。家庭や地域の和も深まります。



地区健康センター
小野寺恒雄所長
おのてらつねお

核家族化が進んだ今、食の継承は家庭ではなかなか難しく、地域で集団で取り組むことが大事だと思っています。

[問]自治振興推進室 ☎63-4121

十八年藤沢町消防出初め式（町消防団、町婦人消防協力隊主催）は一月八日、藤沢中学校グラウンドなどで開かれ、消防団員や関係者らが火災のない安全・安心のまちづくりの決意を新たにしました。

午前九時半から行われた式には町消防団（千葉啓志団長）、町婦人消防協力隊（千葉とぎ子隊長）、千厩消防署藤沢分署（菅原清一分署長）、町のほか町議会、県議会の来賓など関係者約六百五十人が参加しました。

初めに、消防団員と婦人消防協力隊員、消防車両が佐藤守町長や町議会議員らの観閲点検を受けま

した。続いて竹駒神社で神事が行われ、今年一年の無火災を祈願しました。

その後、千葉団長を先頭に約一キロの藤沢商店街を威風堂々分列行進。沿道の町民に防火意識の高揚と火災予防を呼びかけました。

分列行進終点の自治センター前庭では、佐藤町長が「郷土藤沢を災害から守るため、日ごろの消防活動を頑張ってください。町民の願いに応えられるよう切望します」と式辞を述べました。

千葉団長は「心新たに防災活動に邁進する覚悟です。町民の生命と財産を守り、信頼に応えたい」と訓示しました。



藤沢商店街を威風堂々分列行進する消防団員

[問]町自治振興推進室 ☎63-4121



佐藤町長から初点検を受ける隊員たち

町民の安全な暮らしを誓う 交指隊・防犯隊の初点検

町交通指導隊（及川成一隊長、隊員10人）と町防犯隊（及川達夫隊長、隊員6人）の合同初点検は1月8日、町スポーツプラザ前庭で行われました。

午前9時から行われた初点検には隊員はじめ町や千厩警察署など関係者約30人が出席。りりしい制服姿で整列した隊員たちは服装や手帳などの点検をきびきびと受け、交通事故のない安全な町、犯罪のない安心な暮らしを誓っていました。

[問]町自治振興推進室 ☎63-4121



防犯パトロール車でパトロールに向かう町防犯隊員ら

防犯車に青色回転灯装着 千厩警察署管内で第1号

町は千厩署管内で第1号の「青色回転灯」を防犯パトロール車に装着しました。

青色回転灯装着には陸運局の許可が必要。運転者は県警本部長からパトロール実施者証の交付を受けなければなりません。町防犯隊（及川達夫隊長）の隊員6人は、千厩警察署で講習を受け全員が同証の交付を受けました。

出発式は昨年12月15日、役場で行われ、年末年始特別警戒をはじめパトロールが行われています。

[問]文化交流センター ☎63-5515

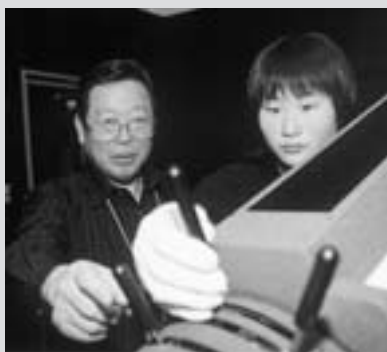
[問]町民課生活環境係 ☎63-2111 内線256



初めて参加した西口自治会協議会。「おいとこ」を踊った

この晴れ舞台を裏方で支えたのは「スタッフ協議会（及川隆司会長）が主催する養成講座で「舞台のいろは」を学んだ六人の「JKツズ（ジュニアオペレータースタッフ）」。三班に分かれ、照明、舞台スタッフ、場内アナウンスとして手づくりの舞台を支えました。今回

初めて参加した藤沢中二年の伊藤聖奈さんは「以前から舞台づくりに興味がありました。裏方の魅力は、みんながそれぞれの持ち場を一生懸命頑張ることで、一つの舞台ができあがっていくところです。機会があれば、また参加したいです」と話していました。



「スタッフの指導で照明を操作する藤沢中2年の伊藤聖奈さん

第二十四回藤沢町子ども郷土芸能発表会（町教育委員会主催）は一月八日、縄文ホールで開かれ、町内五小学校から七団体、百六十

人が出演し、神楽や打ちばやし、踊りなど各地に伝わる自慢の芸能を披露しました。出演したのは「藤沢ばやし保存会」「黄海源大鶏舞継承会」「大籠文化スポーツ少年団」「増沢神楽保存会」「西口地区自治会協議会」「本郷神楽保存会」「徳田田植え踊り保存会」。冬休み中、地域に伝わる伝統芸能を大人たちから学び、元

子どもたちが手づくりで郷土芸能を発表する



県公衆衛生組合連合会長表彰を受けた皆川さん

長年公衆衛生活動に尽力 皆川さんが県衛連会長表彰

皆川栄司さん(72)＝藤沢字町裏＝が平成17年度地区衛生組織活動功労者として岩手県公衆衛生組合連合会長から表彰されました。

皆川さんは、町公衆衛生組合第4支部長として昭和58年4月から現在まで22年間にわたり環境衛生活動の普及や地区衛生組織活動の育成、指導に尽力され、地域の快適な生活環境づくりに貢献されてきました。平成10年6月には、県連合会東磐井支部長表彰も受けています。

皆川さんは「生活検査が行われていたころは、消毒のために支部内の家庭を1軒1軒回るなど、大変な時期もありました。幸い第4支部では当時から、地域の環境はみんなで守ろうという意識で、地元の皆さんが積極的に協力してくれました。長年続けてこれたのは、地域の皆さんに支えていただいたおかげです。ありがとうございました」と話しています。

[問]保健センター ☎63-5304

健診でむし歯のなかった子供たち紹介します

平成17年12月16日の3歳6カ月健診



小山一輝くん
藤沢字板橋



千葉美玲ちゃん
黄海字辻山



三浦駿平くん
徳田字金山沢



佐藤愛ちゃん
徳田字名生城



佐川稜真くん
黄海字町裏



昆野菖香ちゃん
黄海字大橋



近江悠馬くん
砂子田字高田



佐藤祐希ちゃん
徳田字揚戸

自動車の登録、検査は 早めに済ませましょう

東北運輸局岩手運輸支局

自動車の登録、検査手続きをする人は、混雑する3月を避け、できるだけ2月中に済ませてください。車検は有効期間が満了する日の1カ月前から受けることができます。詳しくは下記まで。

[問]東北運輸局岩手運輸支局 ☎019-637-2911(～1/31)050-5540-2010(2/1～) / ホームページアドレス <http://www.tht.mlit.go.jp/it/it-index.htm>

開催します

岩手県に就職希望の人 対象に説明会や面談を

(財)ふるさといわて定住財団

(財)ふるさといわて定住財団では、次のとおり「いわて就職ガイダンス」を開催します。

日時 2月15日(水)午後1時～5時

場所 岩手産業文化センター「アピオ」(岩手郡滝沢村滝沢字砂込389-20)

対象 平成19年3月卒業予定の大学、短大、高専、専門・専修学校の学生

内容 参加企業による会社説明会。当日は就職セミナーも開催
[問](財)ふるさといわて定住財団 ☎019-653-8976

両磐地域に就職希望の人 を対象に就職面接会

ハローワーカー関

一関・両磐地方へ就職を希望する社会人と平成18年3月に卒業予定の人を対象に就職面接会を開催します。

日時 2月21日(火)午後1時半～4時

場所 ベリーノホテル一関
内容 就職面接会のほかに各種就業相談のコーナーも開設

[問]ハローワーカー関 ☎23-4135

募集します

ボランティア交流会に 参加してみませんか？

東磐井生涯学習ボランティアセンター

「ともにボランティアの輪を広めよう」テーマに、次のとおり交流会を開催します。

日時 2月19日(日)午前10時
場所 一関市大東町「室蓬ホール」

対象 ボランティア活動をしている一般および中高生

内容 体験発表など

申し込み 2月17日(金)までに
ファクスか電子メールで下記まで

[問]東磐井生涯学習ボランティアセンター事務局(佐藤さん)
☎/FAX0191-63-4674/電子メール qqgy2cv9@triton.ocn.ne.jp

県立・市町村立病院で 働く医師希望者を募集

岩手県国民健康保険団体連合会

岩手県では将来、県内の県立病院や市町村立病院等で医師として働く人を募集しています。地域医療への従事を希望する医学生には次のとおり修学資金を貸し付けています。

応募資格 18年4月現在大学の医学部に在籍している学生

募集人員 10人程度

募集期間 3月1日(水)～31日(金)

貸付額 月額20万 入学一時金760万円(私大医学部入学者だけ)

その他 応募方法など詳しくは下記まで

[問]岩手県国民健康保険団体連合会健康推進課 ☎019-623-4324

ありがとう ございました

佐藤純男さん(黄海字上場)町のまちづくり推進に役立ててと金10万円が寄付されました

戸籍の窓

こんにちは赤ちゃん

菊池陽斗(和智・志保/黄海字上中山)

千葉和也(和幸・雅子/藤沢字梅ヶ沢)

金今惺和(貴浩・美香/黄海字上場)

佐藤良慶(良規・倫/保呂羽字上野平)

池田冬真(学・淳子/増沢字日当)

菅野汐那(康之・サツ子/西口字西小戸沢)

佐藤央夢(誠・裕子/大籠字蜂ノ沢)

菊地望夢(慶正・弘美/砂子田字新城沢)

千葉莉柘(清勝・沙里奈/藤沢字西風)

ご結婚おめでとう

熊谷慎也・亜紀(黄海字西深堂)

小野寺智広・ルミ(藤沢字黒木)

皆川登・綾子(藤沢字町)

お悔やみ申し上げます

島山クニエ 87 砂子田字境田

佐藤 武雄 86 徳田字堂ノ洞

小野寺フジコ 87 黄海字下中山

島山カシク 93 藤沢字古

佐藤 俊子 89 黄海字上場

千葉 一郎 73 黄海字本沢

三浦 あき 92 徳田字揚戸

*届け出時に総合情報誌への掲載を希望した方だけ載せています

休日の当番医(東磐井地方)

【1月】

日	医療機関	電話番号
22	太陽眼科医院	(52)5950
29	千葉内科医院	(47)4163

【2月】

日	医療機関	電話番号
5	藤沢町民病院	(63)5211
11	小原病院	(75)2230
12	遠藤医院	(53)2126

まちの人口 1月1日現在()は前月比

地区	人口	世帯数
藤沢	3,290(+ 3)	1,061(±0)
黄海	2,675(-10)	725(-2)
八沢	2,507(+ 1)	774(+2)
大津保	1,510(+ 2)	435(-1)
計	9,982(- 4)	2,995(-1)
男	4,905(+ 4)	
女	5,077(- 8)	

町民税の申告相談は2月7日から3月15日

役場総務課税務係

申告が必要な人 **事業所得(営業・農業)、不動産所得、配当所得、山林所得、譲渡所得、一時所得または雑所得(年金等)のある人**

1カ所から給与を受けている人で、**事業所得がある場合** 給与を受けている人で、**年末調整を受けなかった場合**や**医療費控除**を受ける場合

申告が不要な人 **給与所得だけで年末調整した人** **所得税の確定申告書を提出した人**または**提出予定の人**

町民税の申告方法 **申告書を申告相談会場で作成し提出** **申告書を自分で作成した人は郵送等**で役場総務課税務係まで提出

申告日程 **下表のとおり**
受付時間 **午前9時～午後4時**

* 3月15日は午前9時から11時まで

必要書類等 **印鑑(必ず持参)**
事業所得...諸帳簿、領収書、精算書など **給与所得...源泉徴収票**

または**給与明細書**。ない場合は**勤務先から支払い証明書** **公的年金などの受給者...源泉徴収票、収入のわかる証明書** **控除関係...生命(個人年金)保険、損害保険の支払い証明書、医療費領収書**など控除を受けるために必要な書類

農業収支計算をする人 **収支内訳書の作成に便利な計算ノート**「はじめよう、収支計算」を総務課税務係窓口に準備していますので、**希望される人は申し出てください。**

その他 **詳しくは下記まで**

[問]役場総務課税務係 ☎63-2111
内線241、242

月日(曜)	申告会場	対象行政区
2月7日(火)	西口コミュニティセンター	7区
8日(水)	西口コミュニティセンター	6区、8区(木ノ中、白沢、外新地除く)
9日(木)	中山自治会館	22区
10日(金)	曲田地区ふれあいセンター	20区、21区
13日(月)	黄海地区公民館	12区、17区
14日(火)	黄海地区公民館	13区、18区
15日(水)	黄海地区公民館	15区、19区
16日(木)	黄海地区公民館	14区
17日(金)	黄海地区公民館	16区
20日(月)	徳田交流館	25区、26区
21日(火)	徳田交流館	27区、28区
22日(水)	新沼コミュニティセンター	29区、34区
23日(木)	新沼コミュニティセンター	30区、31区
24日(金)	新沼コミュニティセンター	32区、33区
27日(月)	自治センター	8区(木ノ中、白沢、外新地)、23区
28日(火)	自治センター	5区
3月1日(水)	自治センター	2区、4区
2日(木)	藤沢町生活改善センター	42区、43区
3日(金)	郷土文化保存伝習館	40区、41区
6日(月)	保呂羽コミュニティセンター	38区、39区
7日(火)	保呂羽コミュニティセンター	36区、37区
8日(水)	藤沢町文化交流センター	1区、3区、45区
9日(木)	藤沢町文化交流センター	24区、35区
10日(金)	本郷白藤交流館	9区、11区(上峯、板橋、中野、荒屋敷、山谷、立石)
13日(月)	本郷白藤交流館	10区、11区(上峯、板橋、中野、荒屋敷、山谷、立石を除く)
14日(火)	藤沢町文化交流センター	期間内に申告できなかった人
15日(水)	藤沢町文化交流センター	期間内に申告できなかった人

お知らせ

石綿原因の健康障害に 労災補償が適用します

厚生労働省・岩手労働局

石綿にさらされる業務に従事していた労働者は将来、**原発性肺がん、中皮腫**等の健康被害が生じるおそれがあります。特に**中皮腫**については石綿との因果関係が強く指摘されています。石綿にさらされてから発症までの期間は、**原発性肺がん**で15～40年、**中皮腫**で20～50年といわれています。原発性肺がん、中皮腫等を発症しており、それが業務により石綿にさらされたことが原因であると認められた場合には、**労災補償**を受けることができます。詳しくは、**岩手労働局**または**最寄りの労働基準監督署**までおたずねください。また、**厚生労働省**のホームページにも**労災補償制度**等の案内について掲載しています。

[問]厚生労働省ホームページアドレス <http://www.mhlw.go.jp/>

17年10月から岩手県の 最低賃金608円に改正

岩手労働局

岩手県最低賃金は17年10月1日から、**産業別最低賃金**は17年12月11日から改正発効されています。最低賃金制度は、賃金の最低額を法律で保障するものであり、使用者は最低賃金額以上の賃金を労働者に支払わなければなりません。

岩手県最低賃金 608円

産業別最低賃金 **鉄鋼業**=715

円(日額5,714円) **鉄鋼業、金属線製品、その他の金属製品製造業**=682円 **電気機械器具、情報通信機械器具、電子部品・デバイス製造業**=664円 **光学機械器具・レンズ、時計・同部分部品製造業**=667円 **各種商品小売業**=678円 **自動車小売業**=684円

[問]岩手労働局労働基準部賃金室 ☎019-604-3008

情報
広場

Hot Communication

情報広場「ホット・コミュニケーション」は、みなさんが参加するコーナーです。自薦、他薦は問いません。広報(☎63・4121)まで情報をお寄せください。

YOUNG



Smile
スマイルFile⑨

「声優になるのが夢です」と語る友美さん。きっかけは中学時代に見たアニメ。夢の実現に向け、藤沢高校卒業後、アニメーション学院仙台校に進学。毎日勉強しながらトレーニングを重ねています。今春の卒業を前に、「もう少し高音域を鍛えて、自由自在に声を

出せるようにしたいです」と目を輝かせます。「初心忘れるべからず」が座右の銘。「夢を持って道を進めば、きつとつらいことも乗り越えられます」ときっぱり。正月、古里に帰省。久しぶりの母の手料理に感激。「やっぱりお母さんの味は最高です」と笑顔で話してくれました。性格 明るく元気
今、はまっているもの コーヒー。香りが好きで、自分で豆を挽いて飲んでいきます
理想の男性は 思いやりのあるやさしい人
結婚は 三十歳ぐらいまでに

富山友美さん

はたけやま・ともみ
藤沢字西風出身・20歳・双子座・専門学校生

声優を目指して勉強しています。自由自在に声を出せるように毎日トレーニングをしています。

ARTS

まちの文芸

【俳句】はつき句会 題 神の旅・煤払

背のびしてそつと払ひぬ年の煤
去年よりも背丈ちぢみて煤払ふ
竹に竹継ぎ足し寺の煤払
ささやかな酒ほがひかな神送り
神の旅今朝の重湯に味ありて
神立の路を浄めて雪降り
神立つと霊峰の空晴れわたり

千葉 文枝
千葉 明溪
皆川 梨雨
菅野 一水
菅原 清信
三浦 生恵
千葉浅沙男

【俳句】徳田小学校

おんせんでゆげでみえないパパのお
冬休みもつとたちのこもりする
コスモスがマラソンおうえんしてくれた
寒くなりきれいな雪が手にあたる
秋風に稲の穂金の川
ジャリ道を帰る私と赤とんぼ

一年 三浦 康佑
二年 千田 侑奈
三年 佐藤 楨哉
四年 星 佳輝
五年 菊地 彩
六年 星 美花

COOKING

わたしの
腕自慢



【今月のおすすめレシピ】

炊き込みごはん

好みの具を混ぜ炊き込んだ
寒さ厳しい季節にうれしいアツアツごはん
忙しいときは、アサリの水煮や
魚の缶詰でも、手軽においしくできます

材料(分量：4人分)

- コメ..... 2カップ
- 鶏もも肉..... 80g
- ゴボウ..... 80g
- ニンジン..... 50g
- 油揚げ..... 大1/2枚
- 乾しシイタケ..... 2枚
- 油..... 適量
- 水..... 1カップ
- しょうゆ..... 大さじ3
- 酒..... 大さじ1
- みりん..... 大さじ1
- ワカメ(塩蔵)..... 10g
- 大根の葉..... 適量

作り方

コメは、炊く1時間ほど前にとぎ水加減する 水で戻した乾しシイタケと熱湯で油抜きした油揚げを、他の材料といっしょに食べやすい大きさに切る 鍋に油を引き、材料を炒めAの調味料で煮る に材料を入れて炊き上げる。よく蒸らして細かくしたワカメとゆでた大根の葉を散らして出来上がり

今月の料理人



菊地けい子さん
徳田字野岡

COLUMN

「洋一さんお正月の予定は」「まあ食っちゃ寝、まあ食っちゃ寝の生活かな。あと年祝いがあるな」「年祝いですか。わたしも今年四十二で年祝いですよ」
「四十二は年祝いでないだろう」「えっ、年祝いでないんですか」「当たり前だろう、四十二は厄年だろう。男の四十二と女の三十三は特に大厄といって祝うのではなく厄を払う行事だろう」「まっ理屈を言えばそうでしょうが、飲んだり食ったりしたいして変わらないですよ」「それはそうかもしれないが、おらはちゃんとお祈りしてお祝いだからね、厄払いとは違うからね」「えっ、洋一さん還暦だったんですか」「だれがおれと言った。近くにそういう人がいるの」「そつですかね、違わないと思うけどね」「違うの、厄年は今言った男の四十二と女の三十三は大厄そして男の二十五と女の十九は小厄。これの前後は心身ともに気をつけなさいということだろう。年祝いは還暦は

年祝いと厄払い、七つ入りと早生まれ...
神代の昔から、「満」ではなく「数え」で行われている日本の行事
わかるだろう。これに七十の古希、七十七の喜寿、八十八の米寿とかいっぱいあるだろう。だから年祝いと厄払いは違うの。とまあ新年早々理屈を言ってみただけ」
「やっぱり、ところで深置で該当者は何人しゃ」「一人かな」「えっ、二人でないの。あの人たち同級生でないの」「ああ同級生だが一人七つ入りだから」「なんです、七つ入りって」「お前七つ入りも知らないのか。七つ入るときに小学校に入学するから七つ入り、八つで入れれば八つ入り。こんなこと世間の常識」常識で言ってもそれ数え年の時代の話でしょう」「何が数え年の時代だ。いいか、年祝いも厄払いもすべて数えでやってるんだぞ」でも役場では



満で記念品をくれますよ」「ああ、あれは財政上、満でやって引き延ばしをしてるの。本当は数えでくれたいの」「なんかすこい理屈ですね」「理屈でないの。年祝いは神代の昔からの数えなの。だから同級生でも七つ入りと八つ入りは一年違つて年祝いをするの」
「わかりました、わかりました。そのことは良くわかりました。でも今の時代七つ入りとか、八つ入りとは言いませんよ。普通早生まれとかなんとか言うでしょう」「ばかかお前は。早生まれとはお父さんと、お母さんが結婚して十カ月に満たないで生まれたのを早生まれと言っただぞ。だから最近の子はほとんど早生まれだ」「洋一さん、ひよっとしてものすごい勘違いしてないですか」「なにが」「早生まれとは、一月から三月に生まれた人のことを言うんですよ。これ世間の常識」
「えっ、いつから」「神代の昔から」「ふん四十二だっけ。年祝いおめでと

PEOPLE

People
 畠山春男さん
 (78)藤沢字平蔵

先人が残した
 伝統の本郷神楽
 未永く後世へ
 伝えていきたい

本町には南部神楽の流れをくむ本郷、大籠、増沢の三つの神楽があります。このうち本郷地区(九・十一区)では本郷神楽保存会(熊谷功会長)が「本郷神楽」を保存・伝承しています。本郷神楽の起源は嘉永七年にさかのぼり、藩政時代、仙台の葵ヶ八幡宮で踊られていた三輪流神楽が源流だといわれています。明治になって藤沢の佐藤留五郎氏らが芋っ郷土に伝え、大正十一年に「本郷神楽」として確立しました。

伝承者の一人畠山春男さん(七八)「藤沢字平蔵」は神楽歴七十年のベテランです。「テレビのない時代、楽しみは神楽しかなくて、小三から親父(故一男さん)の神楽を追いかけて各地



1月8日、縄文ホールで開かれた第24回藤沢町子ども郷土芸能発表会で、太鼓を演奏する春男さん

を巡業しました。特別に指導を受けたわけじゃないですが、見よう見まねでいつの間にか覚えていました」と振り返ります。一月八日、縄文ホールで開かれた第二十四回藤沢町子ども郷土芸能発表会では、自慢の太鼓で舞手を盛り上げました。本郷神楽は現在、春男さんはじめ十三人の大人たちが自ら舞う傍ら、伝承活動を続けていま



第24回藤沢町子ども郷土芸能発表会で「天の岩戸開き」を舞う本郷神楽保存会の児童たち

す。けいこは月に一、二回。本郷白藤交流館で行われています。春男さんは「一生懸命な大人の姿を見て子どもたちは育ちます。本郷の子どもたちは高校卒業後、町外に出て、Uターンすればまた神楽に戻ってきてくれます」と伝承の秘けつを語ります。千葉県からUターンした千葉鉄也さん(二〇)「藤沢字黒石」は「神楽の醍醐味が忘れられなくてまた参加しました」とにっこり。本郷地区には、地域を挙げて神楽を守り、伝承しようという意思が今なお息づいています。春男さんは「神舞七神楽を後世へと伝えていくことが自分の使命。体が続くうちは頑張るよ」とにっこり。次の舞台は二十二日、一関市舞川です。

PICTURES

ぼくとわたしの絵画展

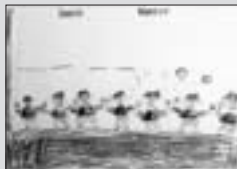
今月は、藤沢幼稚園・保育園のお友達の絵です



なにわいろはぶし
 おもしろかった



小野寺弘人くん



なにわいろはぶし
 かっこよかったでしょう



伊東尚哉くん



スマイリーとっても
 たのしかったよ



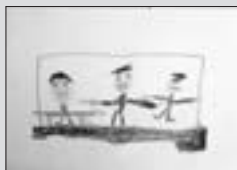
岩淵涼音ちゃん



スマイリーフープも
 じょうずにまわりました



畠山雛安ちゃん



スーパーモンキーゴクウ
 たのしかったよ



阿部凌馬くん



マーチングでシンバルを
 がんばりました



三浦聖平くん

CHILD



はいチーズ **及川紗良ちゃん**
 おしかわ・さら
 平成16年8月生まれ 1歳5カ月
 藤沢字町裏 秀一さん・真由美さん夫妻の長女

リンゴとニンジンが大好きな紗良ちゃん。とてもお利口さんです。ご飯の後は、お片づけのお手伝いもするんですよ。言葉もたくさん話せるようになりました。好きなテレビは「いないいないばあ」と「おかあさんといっしょ!!」。歌や音楽に合わせて上手にダンスもします。お昼寝は午後。お風呂はパパと入ります。パパとママは「健康でやさしい子になってね」と健やかな成長を願っています。

BOOKS

Book 図書館情報

藤沢町図書館から
1月のおすすめ図書

「ずっとずっと
だいすきだよ」
ハンス・ウィルヘルム・作
久山太市・訳

幼児向け

ぼくと犬のエルフィーはいっしょに大きくなっていった。毎晩、寝る前には「ずっとだいすきだよ」と声をかけてあげた。でもある晩・・・

「えほんひとのこころを
もったいぬ」・やけんのボ
スからかいぬへ」
えんどうはつえ・作

小学生低学年向け

野犬のボス「次郎長犬」と野犬狩りから守った人間との心の交流。富士山の裾野、日本平に実在した犬の物語です。



「カムキリは大雪を知っていた」・大地からの「天気信鳥」を聴く・著 酒井登喜夫・著

ヤングアダルト(中高生から一般)

雪国には「カムキリが高いところには産卵すると大雪」という伝承があった。著者は耐雪アンテナ対策のため積雪予測として40年間データを積み重ね、先人の知恵を科学的に証明しました。



「フィンランドに学ぶ教育と学力」
庄井良信・中嶋博・編著

一般向け

教育は人づくり。日本学生の学力低下と比較して、脚光を浴びたフィンランドの教育と学力水準の高さ。その背景について、総合的に分析しています。

開館時間 午前9時から 午後6時
休館日 毎週月曜日・毎月第4金曜日・祝日・年末年始

【問】藤沢町図書館(63)5515

昨年十二月、利用者たちは、年末の帰省と忘年会の話題で盛り上がっていました。中でも忘年会は、一年の締めくくりとなる行事でもあり、みんなが楽しみにしていました。ふじの実各施設では、それぞれ趣向を凝らした忘年会が行われました。十二月初めに、「どんな忘年会にするか」会場はどこにするか」を利用者の会で話し合いながら進め、定番のカラオケ大会やプレゼント交換、職員の間余興のりくエストもあり、楽しい会にしようと思ひながら準備をしました。

当日は、利用者のにぎやかな余興、意外な人の熱唱に感激したカラオケ大会、職員の仮装ラインダンスで大いに盛り上がりました。忘年会の計画、余興の練習、当日の進行まで、今回は利用者の会のメンバーの皆さんが頑張ってくれました。本当におつかれさまでした。最後になりましたが、藤沢町の青葉屋さん、県立千厩高等学校生徒会の皆さんから心こもったクリスマスプレゼントをいただきました。紙上でお礼申し上げます。ありがとうございました。



文・写真 ふじの実学園

利用者の会が企画、準備し大いに盛り上がった忘年会



忘年会のカラオケ大会で盛り上がる利用者たち

FUJINOMI-GAKUEN

ウィリアム・マーテルさん ジェマ・ローラックさん

～ 藤沢町最後の国際理解事業講師



昭和五十八年から二十年以上続いた国際理解事業講師の招へいが本年度で終了します。

最後の講師となった第十六代国際理解事業講師のウィリアム・マーテルさん（ニハ）、ジェマ・ローラックさん（ニハ）夫妻が昨年十二月十五日、一年間の任期を終えてオーストラリアに帰国しました。二人は十七年二月に来町。町文

化振興課に配属され、町内各地で開かれた英会話教室（十六教室）や中学校での英語指導、幼稚園・保育園、小学校での教育訪問など幅広い教育活動を行ってきました。またイングリッシュキャンプをはじめ町国際交流協会（藤本秀夫^{ひでお}会長）主催の事業や町の各種イベントにも積極的に参加して町民と草の根交流を繰り広げ、友情を深め

ました。

ウィリアムさんは一関市内のラグビーチームに所属し、練習や公式戦にも出場。ジェマさんは町の生涯学習講座「油絵コース」を受講し、自身の作品を文化祭に出品するなど、それぞれプライベートでも特技や才能を発揮しながら、充実した一年を過ごしました。

十二月十四日には、同協会主催

の送別会が開かれ、協会役員、町、小中高校の関係者、英会話教室の受講生らが出席して、二人の活躍をねぎらいました。

送別会であいさつに立った協会の藤本会長は、「二人のまじめで一生懸命な姿と笑顔を忘れることはないでしょう。いつかまた再会できることを願っています」と述べました。ウィリアムさんとジェマさんは、「日本語が得意でないわしたちを自宅に招待してくれたり、観光地に案内してくれたり、親切でやさしい藤沢の皆さんと出会えて、素晴らしい時間を過ごすことができました。藤沢町や日本のことは一生忘れません」とお礼の言葉を述べました。

本町の国際理解事業講師は昭和五十八年、オーストラリアから招いたグレッグ、レオニー・コールウィル夫妻が初代。以後、一・三年程度の任期で講師が来町し、ウィリアム、ジェマ夫妻で十六組三十二人が講師を務めました。歴代講師は帰国後も町の国際交流活動のサポーターとして両国間の友好に協力しています。

町は十八年度、JETプログラムによる講師招へいを計画しており、「国際友好親善の町」として提携しているオーストラリア・デュアリンガ町との交流、町国際交流協会の活動などを継続する計画です。

Interview

ウィリアムさんとジェマさんに話を聞いた

通訳 佐川伸文化振興課長補佐

「藤沢町での暮らしはいかがでしたか？」

ジェマ お世辞抜きに素晴らしい時間を過ごすことができました。友達もたくさんできたし、楽しかったです。

「帰国後はどうされますか？」

ウィリアム オーストラリア・ニューサウスウェルズ州のダボという町で暮らします。両親が経営する牧場で働く予定です。

ジェマ わたしは小学校教諭なので、帰国後はダボの小学校に勤める予定です。

「英会話教室をはじめ、イングリッシュキャンプなど、子どもたちのかかわりが大変多い一年でしたが、中でも一番思い出に残っていることは何ですか？」

ウィリアム イングリッシュキャンプで子どもたちと二日間過ごしたことが一番の思い出です。いっしょに料理を作って、いっしょに食べて、おいしかったです。

ジェマ わたしは英会話教室で子どもたちとふれあったことが忘れられません。毎回、教室で顔を合

わせるたびに、互いの距離が近づいて、回を重ねることに英語が上達して、がんばり屋の子どもたちが本当にかわいかったです。

「国際化が進み、地球規模で考えていかなければならないことも増えています。これから外国のかかわりがますます増えてくる子どもたちへ、メッセージをお願いします。」

ジェマ 国際化が進んでいる中で一番大事なことは、共通語とされている英語を勉強することです。言葉が通じるといことはとても大切なことです。藤沢では小さい時からこうして勉強する機会があるのでとてもいいと思いました。

「最後に、一年間、多くの町民と交流し、友情を深めてきましたが、町民へのメッセージをお願いします。」

ウィリアム 初めは不安もありましたが、皆さん親切にしてくれたので、すぐに藤沢になじむことができました。たくさん友達もできて、本当に楽しく過ごすことができました。今は、藤沢町という大きな家族の一員になれたような気がして、充実感でいっぱいです。

皆さんと過ごした日々や楽しい思い出はずっと忘れません。そして、いつの日かまた会えることを願っています。皆さんの健康と今後のご活躍を心から祈っています。ありがとうございました。

親切でやさしい皆さんと出会い感謝しています
藤沢での暮らしは、本当に楽しく素晴らしかったです
いつかまた皆さんと会えることを願っています

大籠カトリック教会



藤沢町大籠地区は江戸時代、産金や製鉄が盛んに行われていた場所である。鉱山ではキリスト教が布教され、多くの信者がこの地で暮らしていた。しかし、徳川幕府の禁教政策によってキリスト教は禁止され、大籠だけでも300人を超える人々が処刑されたと伝えられている。大籠地区には「大籠カトリック教会」を中心に「地蔵の辻」「上野刑場」「首実験石」など十数カ所のキリシタン史跡があるほか、近年では、キリシタン関係の資料を展示している「歴史資料館」や「母子像」「殉教クルス館」なども整備され、崇高な先人の歴史を後世へと伝えている。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。例年にならない大雪となった今年の冬ですが、皆さん、年末年始はどのように過ごされましたか。初詣に行った方、願い事は何ですか。初売りに出掛けた方、ほしい商品は手に入りましたか。食べ過ぎで太った方もいるのでは。佐藤守町長年頭のあいさつにもありましたが、昨年の本町は市町村合併への参加を見送り、示された条件整備に全力を注いだ一年でした。今年は一歩前へ進む年、そして笑顔の絶えない明るい一年になるといいですね。

(自治振興推進室 島山浩)

総合情報誌ふじさわ1月号の印刷経費は1部53円です